

## 自己評価及び学校関係者評価委員評価

学校名	坂戸市南小学校
実施日	平成23年2月15日

・「自己評価」及び「学校関係者評価委員評価」の欄には、A～Dを記入してください。  
 ・「自己評価についての評価の説明及び学校の考え」の欄には、その評価に至った理由及び自己評価の結果を学校がどのように受け止めているかを明確にしてください。

領域	NO	評価項目	自己評価	自己評価についての評価の説明及び学校の考え	学校関係者 評価委員評価	学校関係者評価委員会の説明
組織・運営	1	学校は、特色ある学校づくりを目指し、組織的・計画的に取り組む体制を作っている。	B	○第1回保護者会では、全教室に校長・教頭で訪問して教育方針を説明した。 ○重点を明確にし、グランドデザイン等に明示して取り組むとともに、7月と12月に保護者・児童からアンケートを実施して改善に努めてきた。 ○学校内が落ち着き、学力向上にむけて全体で努力してきた。	B	○アンケートや学習調査結果等を的確に分析して活用している。しかし、保護者アンケートの評価でB・C評価の項目もあり、まだ向上の余地がある。 ●過度な緊縮財政が教育現場に影響を及ぼしている。
	2	学校は、計画・実行・評価・改善のサイクルのもとにした、分掌経営を進めている。	B	○学期毎の評価を生かして、すぐに改善できることに取り組むように評価を行ってきた。 ○行事等学校の教育活動については、昨年度の反省をもとに実施している。	B	○学期毎の評価・反省がなされている。 ●PDCAについては、カードを作るなどもっと実践的な取り組み方があると思う。
	3	学校は、自己指導力の育成を目指して組織的に生徒指導に取り組んでいる。	A	○毎月の生活目標を中心に、具体的な取り組みを明確にし、全校体制で自己指導能力の育成に取り組んだ。 ○毎月の生徒指導委員会・教育相談委員会の実施とそれに伴う組織的な対応によって、不登校児童ゼロと安全・安心な生活を保障してきた。 ○「まず、話を聞く」を生徒指導の基本とし、自己指導力の育成に努めた。	A	○その時々に応じて児童及び保護者に対して、生活目標を的確に発信している様子が伺える。
	4	学校は、事故やトラブルに対して、組織的に迅速に対応できる体制を整えている。	A	○職員間の連絡・報告・相談を密に行い「すぐに対応、丁寧な対応」を心掛けた。また、不足な部分については、教育相談委員会で伝えるようにしてきた。 ●危機管理マニュアルの活用方法・不審者対応等について余裕があるときこそ研修を積み重ねておきたい。	A	○特にトラブルは聞こえておらず、体制が機能しているものと思われる。 ●危機管理マニュアルの研修等が必要との自己評価がなされているが、解決して欲しい。

領域	NO	評価項目	自己評価	自己評価についての評価の説明及び学校の考え	学校関係者 評価委員評価	学校関係者評価委員会の説明
教育課程・学習	5	学校は学校教育目標の具体化を目指し、教育課程を編成・実施・評価し、教育活動の充実改善を図っている。	B	○23年度に向けて教育課程を作成している。(3月上旬完成)  ●各教科・領域部会を開けないでいる。共通した余裕時間の確保が必要である。	A	○南小だより・学年だよりで目標を広く知らしめている。  ○遅れが生じた場合は、補習等でカバーしている様子がみられる
	6	学校はそれぞれの学年で「読む」「書く」「計算」の達成目標を踏まえて、指導や取り組みを工夫している。	A	○基礎・基本の徹底のために、学期毎に補習を行った。また、3学期には、確認テストを行い補充に努めた。  ○基礎・基本、学ぶ意欲、思考力、表現力の向上が見られるようになった。	A	○共通テストのデータが、県や市の結果を上回っており、努力の成果が現れている。  ○年度ごとの改善効果もデータとして現れている。
	7	学校は、学力向上を目指し、児童生徒の実態に基づいて指導体制や授業改善に努めている。	B	○確かな学力・伝え合う力を育むための指導法の工夫について、国語科の学校研究を実施し、様々な検証をもとに本校独自の手だてを考え、実践してきた。 ○コンピュータを活用した授業や教材教具を工夫して分かりやすい授業を行うよう努めてきた。  ●情報機器をもっと使えるよう研修を深めたい。 ●個に応じた指導ができるように、少人数指導や習熟度別指導の充実を図りたい。	A	○授業を参観して、指導に工夫が感じられた。
	8	学校は豊かな心を育む授業の充実を図っている。	B	○人権に関わることや生活目標に関わることについて、学年で道徳に取り組んで成果があった。  ○全員1回以上の道徳の公開授業と教育実習生への示範授業の公開等により、若い教員はもとより全員の授業改善に繋がった。  ●読み聞かせや読書活動充実のために、図書数の充実や時間の確保も必要である。	B	○廊下に読書活動の資料が数多く張り出されていて、日頃の実践している様子が見られる。

領域	NO	評価項目	自己評価	自己評価についての評価の説明及び学校の考え	学校関係者 評価委員評価	学校関係者評価委員会の説明
教育課程・学習	9	学校は、「規律ある態度」の達成目標を踏まえて、指導や取組を工夫している。	A	<p>○生活目標を中心に、全校体制で具体策を明確にして取り組んだことが成果につながった。</p> <p>○予鈴のチャイムにより授業開始時刻がよく守られるようになった。</p> <p>○あいさつについては、全校をあげて指導を続けてきた。結果、家庭や地域から成果が見られるようになったとの評価が得られている</p> <p>○清掃中は、静かに落ち着いて取り組んでいる。成果として、学校がきれいな状態が継続されている。</p>	B	<p>○あいさつに対して重点指導がなされており、改善効果も見られる</p> <p>●下級生は、元気なあいさつができるが、上級生になるほどできなくなる。年齢に応じた教育指導が必要である。</p>
	10	学校は、児童生徒一人一人を大切にしたい学校経営を行っている。	A	<p>○児童のよさを見つけ、それを伸ばしてあげられるよう教職員が休み時間に共に遊んだり、「ほめる指導」と「コミュニケーション」をするよう心掛けている。</p> <p>○友だちを「さんづけ」で呼ぶことが定着して、言葉づかいも丁寧になっている。</p>	B	<p>○全体的に品行のよさが感じられる。</p> <p>●保護者アンケートの評価が高くない。</p> <p>●子ども同士の言葉づかいで注意すべきところがある。</p>
	11	学校は、「健康・体力」の目標達成を踏まえて、指導や取組を工夫している。	B	<p>○業間休みは、全体が外遊びをする習慣できつつある。また、持久走やなわとびなど季節によって、学校全体で取り組んだ成果もあり、持久走では、昨年度と比較して、平均タイムが30秒もアップした。</p> <p>○親子牛を校庭に「わくわくモーモースクール」を実施して、牛乳のできるまでを体験学習した。</p> <p>○3年生は、校医さんによる歯科指導を行い、啓発になった。</p> <p>●体力テストでの課題は、男子「ボール投げ」・男女「長座体前屈」である。今後目標をもたせて、体力向上に努めたい。</p>	A	<p>○持久走やなわとび等子どもたちが生き生きと取り組んでいる様子が見られる。持久走のデータでも記録アップが証明されている。</p>
	12	学校は、ノーマライゼーションの考えを踏まえて、特別支援教育の充実を図っている。	A	<p>○特別支援学級では、個別の指導計画をもとに指導に当たっている。また、通常学級との交流も授業・行事・給食等で毎日積み重ねている。</p> <p>●ノーマライゼーションの考えを理屈で理解させるだけでなく、行動に表せるよう指導に当たりたい。また、そのためにも教員も研修に深めたい。</p>	A	

領域	NO	評価項目	自己評価	自己評価についての評価の説明及び学校の考え	学校関係者 評価委員評価	学校関係者評価委員会の説明
資質の向上	13	学校は教職員の服務規律の確保に努めている。	A	<p>○南小学校の個人情報取扱規程と会計取扱規程を作成して周知した。会計については、形式を統一し確認を複数で行い間違いが起こらないよう努力している。</p> <p>○様々な事故を想定し、防止のために日報や朝の打合せ、職員会議で折に触れ話す機会があった。</p> <p>○職員一人一人が職務に対してやる気を持てるような校務分掌、指導・支援、雰囲気づくりにより、服務規律のある職場となっている。</p>	A	○教職員の自己評価で高い値を示しており、問題ないものと思われる。
	14	学校は教職員の指導力向上に計画的・組織的に取り組んでいる。	B	<p>○本年度は、坂戸市教育委員会の委嘱を受けて、国語科の研究発表会を11月に行った。(確かな学力・伝え合う力を育むための指導の工夫)</p> <p>○指導力向上のために指導者を招聘して、全員が研究授業を行い研修を重ねてきた。</p> <p>○年度始めに、西部教育事務所・坂戸市教育委員会の学校訪問があり、そこで研究授業の取り組みを生かし、指導方法の工夫改善に取り組んだ。</p>	B	<p>○研究授業などの取り組み実績がある。</p> <p>●外部研修及び外部での研修結果を共有する点で不充分との自己評価が示されている。</p>

領域	NO	評価項目	自己評価	自己評価についての評価の説明及び学校の考え	学校関係者 評価委員評価	学校関係者評価委員会の説明
学習環境	15	学校は、環境美化に努め、温かさと潤いのある学ぶ環境づくりを組織的に進めている。	A	○美しい学校を目指して、教室・廊下等の清掃や掲示教育や環境教育の充実を図ってきた。また、家庭や地域の協力を得て校舎内外が整然として潤いを感じる環境となった。	A	○学校全体を見て、すっきりとした印象を受ける。
	16	学校は安全で機能的な教育環境づくりを進めている。	A	○安全点検を定期・臨時に実施すると共に毎日の安全確認には、十分配慮している。 ○理科室の薬品、家庭科室の刃物等については、鍵の掛かる戸棚に保管している。また、薬品は、使用量・使用日時をその都度記録している。	A	
	17	学校は、教材・備品を充実・整備し、学習環境の充実を図っている。	A	○教科領域の担当者が中心となり、夏休みには職員全体で備品・図書の整理、廃棄の作業を実施した。 ○本年度は、学童の工事に伴い、理科室・図工準備室の移動があり整備を施した。	A	

領域	NO	評価項目	自己評価	自己評価についての評価の説明及び学校の考え	学校関係者 評価委員評価	学校関係者評価委員会の説明
家庭・地域との連携	18	学校は開かれた学校づくりを目指し、家庭・地域社会に積極的に情報提供を行っている。	A	○ホームページは、担当者が中心となり、学校の特色ある取り組みを紹介している。また、保護者からの要望で地震等の災害での対応についてもトップページで紹介している。	A	○ホームページや南小だより等により学校の情報を地域に公開することが、丁寧になされている。
	19	学校は、積極的に地域の人材を教育活動に活用している。	A	○学校応援団を組織し、読み聞かせ・学習・環境・安全見守りを中心に協力していただき、成果をあげている。 ○筑波大学附属坂戸高校との連携を本年度開始して、野菜作りに高校生との交流学习ができた。	A	○スチューデントインターンシップ事業を最も積極的に受け入れている学校である。 ○学習ボランティアや地域の人が参画しての清う育活動も積極的に行われている。
	20	学校は、家庭・地域社会と連携協力し、子どもの問題解決を図っている。	A	○児童の登下校の安全を家庭や地域の協力を得て見守っている。合わせて、登下校に関する通学路や歩行の仕方・班編制等についてPTAと連携して問題解決に努力している。 ○地区懇談会・通学路点検・パトロール等もPTAと協力して実施している。	A	○PTA活動・見守り活動などが活発に実施されている。また、防犯情報なども適切に交換されている。